

令和3年度「元気ちば！健康チャレンジ事業」 事業計画

事業目標	ストラクチャー評価（構造）	プロセス評価（過程）	アウトプット評価（事業実施量）	アウトカム評価（結果）
評価項目・評価指標 目標値	(1) 仕組みの構築 (2) 有識者会議で協議 (3) 予算の確保 (4) 県事業と市町村事業の調整 (5) 介護部門と国保部門との連携 (6) 事業のPR (7) 協賛店の確保 (8) 次年度の事業実施の準備	(1) 連携予定市町村の連携開始に向けた 準備、内容調整、フォロー (2) 未連携市町村の連携開始に向けた協議	(1) 市町村説明会開催 1回 参加市町村数 54市町村 (100%) (2) 市町村からの相談件数 (3) 協賛店からの相談件数 (4) 啓発資材の配付数 チラシ：88,500枚 ポスター：300枚 (5) 県民だよりによる周知 (6) 委託業者との打合せ 12回以上	(短期的なアウトカム評価) (1) 連携市町村数 27/54市町村 (2) カード交付枚数の増加 (3) 協賛店数の増加 (1000店舗目標) ----- (長期的なアウトカム評価) 健康ちば21 (第2次) の評価指標で該当する項目の改善 ・ 県の健康寿命の延伸 ・ 栄養・食生活に関する項目 ・ 身体活動・運動に関する項目 ・ 循環器疾患に関する項目等
実施計画	(1) 市町村へ本事業と連携にあたる現状調査を行い、課題を把握し、課題解決策を提示する。必要に応じて要綱の改正等の調整を行う。 (2) 健康ちば地域・職域連携推進協議会で、本計画についての意見をいただく。 (3) 次年度も事業が継続できる予算を要望する。 (4) 各市町村が独自に定めているポイントの付与条件を考慮し、市町村間で大きな差が生じないように、また、「ち〜バリュ〜モデル」の活用を提案しながら、市町村に合せた交付基準の調整を行う。 (5) 高齢者福祉課、保険指導課の協力体制を確認し、情報共有を行う。双方で開催する説明会では、必要に応じて、本事業の説明や説明会に出席する等、連携を取りながら実施する。 (6) SNS (Instagram, Facebook, Twitter)、県民だより等の広報媒体を用いて、県民に広く周知する。 (7) ◇事務局からの店舗への働きかけ 電話、郵送、SNS 広告 (Facebook、インスタグラム、動画広告) 等を用いて広く募集する。 ◇県から 県民だより、市町村広報誌の活用等を行い、広く募集する。市町村へ、協賛店募集の協力を呼びかける。 (8) 仕様書の内容を精査し、選定委員会を実施し、次年度の委託候補者を決定する。	◇現状調査 (5月頃) の実施 連携市町村、未連携市町村それぞれに対して、本事業と連携するにあたっての課題を調査する。 ◇市町村説明会 (7月下旬) 既に実施している市町村からは、事例の紹介等を行っていただく。 現状調査で上がった課題に対する対応案を示す。 ◇ちばチャレ通信の発行 市町村の連携開始に向けた検討を促進するため、事業の最新情報を記載した「ちばチャレ通信」を随時発行し、情報共有を行う。 ◇随時、各市町村へ連携に向けた検討状況の確認を行うとともに、市町村からの相談にも応じる。	(1) 多くの市町村が参加できるよう Web 開催することで、市町村支援を行う。 (2) 相談時、随時対応をする。 (3) 相談時、随時対応をする。 (4) 連携市町村、連携予定市町村を中心に配布し、効果的な周知を行う。 (5) 県民だよりに記事を掲載する。 (6) 月に 1 回以上、事務局と打合せを行い、事業の進捗管理を行う。	(短期的なアウトカム評価) (1) 年度末に評価をする。 (2) 年度末に評価をする。 (3) 年度末に評価をする。 ----- (長期的なアウトカム評価) 健康ちば21 (第2次) の評価指標で該当する項目 ・ 県の健康寿命の延伸 ⇒令和3年末頃に、最新の値がわかる予定。 最新値で評価を行う。 ・ 栄養・食生活に関する項目 ・ 身体活動・運動に関する項目 ・ 循環器疾患に関する項目等 ⇒令和3年度生活習慣に関するアンケート調査結果で評価を行う。